

(別紙様式)

2010年度 学校自己評価システムシート (自由の森学園中学校)

目指す学校像	深い知識、豊かな表現、等身大の体験、自立した自由を育む、自由の森の「親(ものみかた)」の教育
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学3学年の学校6日制移行により「学び」の充実をさらにすすめていくと共に、土曜日の4時限目の使い方を検討していく。 2. 保護者との連携を大切に、生徒・教員・保護者と共につくる学校を目指していく。 3. 地域に開かれた学校づくりを目指す。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (6 月 8 日 現 在)			
番 号	評 価 項 目	現 状 と 課 題	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	満 足 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	学校6日制移行により様々な学びの充実を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校においては今年度より全学年で学校6日生が実施されるため、各教科ではこれまでおこなってきたカリキュラム内容の実践とさらなる検討を進める。 ・土曜日は各学年3時限目で終了するため、4時限目の使い方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践中で見えてきた具体的な事例をもとに教科会を中心に検討し、そのことを実践にかえていく。 ・学年会、中学部会を中心に各学年、中学全体の動きをつつていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において実践と検討実践というサイクルの中で生徒たちの理解度の変化はあったか ・土曜日の4時限目の使い方について生徒と教師で一緒に考え、有効な時間となったか 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から6日制を実施していた2年生はもちろんの事、他の学年も6日制への移行がリズムよくでき、学びの充実にもつながっていた。 ・特に行事前など、土曜の4時限目を中学全体、学年、クラスなど話し合いの時間などに使い、有効な時間となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の土曜授業は3年生が4時限目まで、1・2年は3時限目までの授業になる予定であるため、今年度と違った時間の使い方になる。学年、中学全体で有効な使い方について検討していきたい
2	保護者との連携を大切に、生徒・教員・保護者と共につくる学校を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施された25周年記念行事では、自由の森学園が、生徒と教員、保護者の三者、それに卒業生も含めた四者の協力によって成り立っていることを再確認できた。この関係性を今後もより一層強いのものにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス、学年を超えた様々な保護者活動が始まっている。全校保護者連絡会・父母選出学校評議員投票管理委員会・自由の森学園を広める会・財政支援プロジェクト「Jiモール」・学校再生プロジェクト・名簿でつな 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス、学年を超えた様々な保護者の活動のそれぞれが充実して取り組めたか。 ・学校として保護者の活動に積極的にかかわることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの活動がそれぞれ活発におこなわれていた。 ・財政支援プロジェクト「Jiモール」においては物販活動等により昨年度1年間で180万円を学校法人に寄付していただいた。 ・自由の森学園を広める会においては様々な募集イベントへのご協力いただいた。 学校再生プロジェクトでは校内の修繕及び草むしり、清掃をおこなっていただいた。 ・保護者の方々が中心となり各地域で市民講座を計画し開催していただいた。 ・管理職及び募集部、環境部等校務分掌の教員たちがかわっていた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様に保護者のさまざまな活動が充実して取り組めるように態勢を整える。 ・生徒のさまざまな活動や、卒業生の活動ともゆるやかに連携できるように、情報交換を中心に態勢を整える。
3	地域に開かれた学校づくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流・連携は確実に進んでいる。 ・より一層自由の森学園への理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の1級建築士による選択講座を継続して開講する。 ・飯能地域研究と飯能市のエコツアーとの連携の継続。 ・飯能プランニングコンテストへの参加 ・地域の祭りへの生徒参加 ・飯能ツーディーマーチへの運営協力。生徒ボランティア ・市民に開く公開講座 ・市内の中学への出張授業。 ・地域清掃活動への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教師の地域への積極的な参加の意識が高まったか。 ・だけでなく自由の森学園を地域に発信できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1級建築士による講座「森と木の家」引き続き開講した。地域の製材所や工務店などに協力していただく。 ・「地域研究」の生徒による飯能エコツアーの実現し、飯能プランニングコンテストにも参加する。優秀賞を受賞する。 ・祭り、ツーディーマーチなど生徒教師の地域へのかかわりが、多くなってきている。 ・地域の中学校での出張授業が増加している。7校で実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中学校への授業をさらに増やしていく。 ・選択授業を中心に、もっと地域に視点を置き、学んでいく時間を増やしていくとともに、地域の方を講師に招いたりして、学びを深めていく。 ・今後も出張授業やさまざまなイベント参加を通して地域との関わりを継続していく。

(別紙様式)

2010年度 学校自己評価システムシート (自由の森学園高等学校)

目指す学校像	深い知識、豊かな表現、等身大の体験、自立した自由を育む、自由の森の「観(ものみかた)」の教育
重点目標	1. 「自分たちの問題を自分たちで考え、決めていく」ことの取り組みをすすめていく。 2. 保護者との連携を大切に、生徒・教員・保護者と共につくる学校を目指していく。 3. 地域に開かれた学校づくりを目指す。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (6 月 8 日 現 在)		
号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成 次年度への課題と改善策
1	高校を中心に、「自分たちの問題を自分たちで考え、決めていく」ことの取り組み	・学校行事や修学旅行は生徒の実行委員会が中心になって行われているが、「決定」は教員の学年会や職員会議ですることがある。そのため、結果的に教師に依存する状況を生んでしまっているのではないかと問題意識から、教員と生徒の呼びかけにより「高2学年の会」という生徒と教員で協議し決定していく「会」を試行的にはじめた。	・昨年度高2の実践を高3学年の会として継続していく。 ・昨年度の実践を他学年も拡大していく ・具体的には、体育祭の学年種目や、学年ワーク、学園祭の学年ねぶたなどを、実行委員会などからの「申し入れ」にもとづき協議していく。	・学年の会が学年を取り仕切るということだけでなく、何かをしたい、この事について話したいということを持ち込める場になっていたか。 ・生徒と教員とで何かを「決定する場」になっていたか。	・高3学年の会においては昨年同様学年ねぶた、学年合唱など「学年の会」として取り組みたいと申し入れがされ、学年集會に提案され1つの流れとしての取り組みができた。 ・卒業生のメッセージをめぐり、学年の会を中心に話し合いが展開され、学年全体として「どういう姿で卒業するのか」ということを深めることができた。 ・高2においても学年の会が始まり、各HRをつなぐ取り組みがされていた。	A ・高校1年では特に取り組むことはできなかったが、2年次には取り組みを実現させたい。 ・学年の会をさらに発展させ、学校全体としても「自分たちの問題を自分たちで」という意識を手に入れることが出来るようすすめていく。
2	保護者との連携を大切に、生徒・教員・保護者と共につくる学校を目指す	・昨年度実施された25周年記念行事では、自由の森学園が、生徒と教員、保護者の三者、それに卒業生も含めた四者の協力によって成り立っていることを再確認できた。この関係性を今後もより一層強いのにしていきたい。	・クラス、学年を超えた様々な保護者活動が始まっている。 ・全校保護者連絡会・父母選出学校評議員投票管理委員会・自由の森学園を広める会・財政支援プロジェクト「Jiモール」・学校再生プロジェクト・名簿をつな	・クラス、学年を超えた様々な保護者の活動のそれぞれが充実して取り組めたか。 ・学校として保護者の活動に積極的にかかわることができたか	・一つ一つの活動がそれぞれ活発におこなわれていた。 ・財政支援プロジェクト「Jiモール」においては物販活動等により昨年度1年間で180万円を学校法人に寄付していただいた。 ・自由の森学園を広める会においては様々な募集イベントへのご協力いただいた。 ・学校再生プロジェクトでは校舎内の修繕及び草むしり、清掃をおこなっていただいた。 ・保護者の方々が中心となり各地域で市民講座を計画し開催していただいた。 ・管理職及び募集部、環境部等校務分掌の教員たちがかわっていた。	A ・今年度同様に保護者のさまざまな活動が充実して取り始めるように態勢を整える。 ・生徒のさまざまな活動や、卒業生の活動ともゆるやかに連携できるように、情報交換を中心に態勢を整える。
3	地域に開かれた学校づくりを目指す	・地域との交流・連携は確実に進んでいる。 ・より一層自由の森学園への理解を深めていく必要がある。	・地域の1級建築士による選択講座を継続して開講する。 ・飯能地域研究と飯能市のエコツアーとの連携の継続。 ・飯能プランニングコンテストへの参加 ・地域の祭りへの生徒参加 ・飯能ツアーディマーチへの運営協力。生徒ボランティア ・市民に開く公開講座 ・市内の中学への出張授業。 ・地域清掃活動への参加。	・生徒・教師の地域への積極的な参加の意識が高まったか。 ・どれだけ自由の森学園を地域に発信できたか。	・1級建築士による講座「森と木の作家」引き続き開講した。地域の製材所や工務店などに協力していただく。 ・「地域研究」の生徒による飯能エコツアーの実現し、飯能プランニングコンテストにも参加する。優秀賞を受賞する。 ・祭り、ツアーディマーチなど生徒教師の地域へのかかわりが、多くなっている。 ・地域の中学校での出張授業が増加している。7校で実施した。	A ・地域の中学校への授業をさらに増やしていく。 ・選択授業を中心に、もっと地域に視点を置き、学んでいく時間を増やしていくとともに、地域の方を講師に招いたりして、学びを深めていく。 ・今後も出張授業やさまざまなイベント参加を通して地域との関わりを継続していく。